

高等学校教育における「コア」と「質保証」について

1. 「コア」の範囲と「質保証」についての考え方

(1) 「コア」の範囲と評価の関係

○ 全ての生徒が共通して身に付けるべきもの（＝「コア」）について、高等学校教育で身に付けさせる様々な能力等の領域うち、どの範囲の領域を、「コア」の要素を含む領域として捉えるか。

（学習指導要領では、「高等学校は何か」ということを学習内容の面から示すものとして「必修教科・科目等」を設けている。）

* 学校教育法が高等学校教育の目標に掲げている「確かな学力」、「豊かな心」及び「健やかな体」との関係ではどうか。「コア」の要素を含む領域は、これら（知・徳・体）のいずれにも及ぶものと考えてよいか。

* 例えば、評価との関係を考えたとき、以下の領域についてはどうか。

A. 筆記試験や技能試験等による客観的な評価の対象としやすいもの

（学力の要素となる領域のうち）

- ・ 基礎的な知識・技能
- ・ 基礎的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力

B. A以外のもの

（学力の要素となる領域のうち）

- ・ 主体的に学習に取り組む意欲・態度

（学力又はそれ以外の能力等の領域のうち）

- ・ 言語を活用して批判的に考える力、分かりやすく説明する力、議論する力
- ・ 新たな価値観や考え方を創り出す力やものづくり力などを含めた「創造力」
- ・ 多様な他者の考えや立場を理解する力やコミュニケーション力などを含めた「人間関係形成力」
- ・ 自ら課題に挑戦していく力などを含めた「主体的行動力」
- ・ 今後の自分自身の可能性を含めて自らを肯定的に理解するとともに、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする「自己理解・自己管理能力」
- ・ 個性に応じて、生徒が将来の進路を決定するために必要な「勤労観・職業観」
- ・ 社会の発展に寄与する意識・態度などの「公共心」
- ・ 社会奉仕の精神、他者への思いやり
- ・ 健康の保持増進のための実践力

《 ～「社会・職業への円滑な移行に必要な力」、「市民性」ほか 》

(2) 「コア」の範囲と「質保証」の方向性

- これまでの議論を踏まえ、「コア」の範囲と「質保証」の方向性については、例えば、以下のいずれかの考え方により整理できないか。

高等学校教育における「質保証」の方向性としては、どのような方向性を目指すべきか。

《考え方1》

- 「コア」の範囲は、A及びB(評価の対象としないものとそれ以外のもの)双方の範囲にわたるものと捉え、
 - (a) 基礎的な知識・技能や、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等については、客観的な評価の取組を進めるとともに、
 - (b) その他の要素についても、評価の妥当性の確保や信頼性の向上に向けて、調査研究を進める。

《考え方2》

- 「コア」の範囲は、A(評価の対象としないもの)の範囲のみにとどまるものと捉え、
 - (a) 基礎的な知識・技能や、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等については、客観的な評価の取組を進める。

2. 今後の「質保証」に向けた仕組みの在り方

(1) 基礎的な知識・技能及び思考力、判断力、表現力等に関する「質保証」

- 基礎的な知識・技能や、思考力、判断力、表現力等の育成の面での「質保証」を目指し、今後さらに客観的な評価の取組を進めていくとすれば、どのような仕組みにより、これを進めていくか。

(2) その他の幅広い能力等に関する「質保証」

- 学習への意欲・態度や、社会・職業への円滑な移行に必要な力、社会の一員として参画し貢献する意識などの「市民性」、その他の道徳的な価値・倫理観、健康の保持増進のための実践力といった幅広い能力等の育成の面での「質保証」については、どう考えるか。

これらの能力等についても、評価の仕組みの充実のために、評価の妥当性の確保、信頼性の向上等の課題に対しては、どのように対応していくか。

【参考】到達目標に対する達成度把握の方法に関する論点

（「課題の整理と検討の視点」（平成24年度8月10日高等学校教育部会）より）

（今後の質保証の考え方）

- 上記を踏まえ、高等学校における教育の質の保証にあたっては、以下のような点について議論することが必要である。

（略）

- ③ 到達目標に対する達成度をどのように把握するか。
- ・ 達成度を測る仕組みや指標の在り方をどう考えるか。設置者又は各学校が設定することが考えられるか。また、この場合、国の役割をどう考えるか。
 - ・ 達成度を測る仕組みや指標としてどのようなものが考えられるか。

（例）・各種検定試験の活用

・共通のテストの実施・活用

・到達目標を測るための様々な指標例の提示 等

高等学校における「必履修教科・科目」と「共通必履修科目」等について (平成21年学習指導要領改訂の考え方)

※ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(平成20年1月17日中央教育審議会答申)及び「高等学校学習指導要領解説総則編」(平成21年11月)より

【改訂の考え方】

高校生に最低限必要な知識・技能と教養の幅を確保するという「必履修教科・科目」の趣旨(共通性)と学校の創意工夫を生かすための裁量や生徒の選択の幅の拡大(多様性)とのバランスを図る。

高等学校における教科・科目等の構成について

1 教科・科目

① 必履修教科・科目 (共通必履修科目を含む)

② 各学科に共通する教科・科目のうち必履修教科・科目以外の教科・科目

③ 学校設定教科・科目: 地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、各学校で設定する各学科に共通する教科・科目以外の教科・科目
* 卒業単位数に含めることができるのは20単位以内

2 総合的な学習の時間(すべての生徒に履修させる必要)

3 特別活動(ホームルーム活動<原則年間35単位時間以上>、生徒会活動及び学校行事から構成)

※ 卒業までに修得させる単位数は74単位以上

※ 学校においては、卒業までに修得させる単位数を定め、校長は、当該単位数を修得した者で、特別活動の成果がその目標からみて満足できると認められるものについて、高等学校の全課程の修了を認定。

「必履修教科・科目」について

- 学習指導要領に定める高等学校の「必履修教科・科目」(すべての生徒に履修させる教科・科目)は、「高等学校とは何か」ということを学習内容の面から国が示したものの。
- 共通性と多様性のバランスに配慮し、各「必履修教科・科目」の単位数を原則として改訂前より増加させないこととした。(合計で最低31単位)

「共通必履修科目」について

- 学習の基盤であり、広い意味での言語を活用する能力とも言うべき力を高める国語、数学、外国語の必履修科目については、すべての高校生が共通に履修する「共通必履修科目」を設けることで、高等学校の教育課程の共通性を高めることとした。
- 具体的には、「国語総合」「数学Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」を「共通必履修科目」として設定。

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数 〔改訂後〕

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理歴史	世界史A	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	┌ 「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
	理科課題研究	1	
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	コミュニケーション英語基礎	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	
コミュニケーション英語Ⅱ		4	
コミュニケーション英語Ⅲ		4	
英語表現Ⅰ		2	
英語表現Ⅱ		4	
英語会話		2	
家庭	家庭基礎	2	┌ ○ └
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	┌ ○ └
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○2単位まで減可

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	国語表現Ⅰ	2	┌ ○ └
	国語表現Ⅱ	2	
	国語総合	4	
	現代文	4	
	古典	4	
	古典講読	2	
地理歴史	世界史A	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学基礎	2	┌ ○ └
	数学Ⅰ	3	
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	理科基礎	2	┌ 2科目（「理科基礎」「理科総合A」又は「理科総合B」を少なくとも1科目含む。） └
	理科総合A	2	
	理科総合B	2	
	物理Ⅰ	3	
	物理Ⅱ	3	
	化学Ⅰ	3	
	化学Ⅱ	3	
	生物Ⅰ	3	
	生物Ⅱ	3	
	地学Ⅰ	3	
地学Ⅱ	3		
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ ○ └
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	オール・コミュニケーションⅠ	
オール・コミュニケーションⅡ		4	
英語Ⅰ		3	
英語Ⅱ		4	
リーディング		4	
ライティング		4	
家庭		家庭基礎	2
家庭総合	4		
生活技術	4		
情報	情報A	2	┌ ○ └
	情報B	2	
	情報C	2	
総合的な学習の時間		3~6	○

※ 赤字は共通必履修科目